

## 平成 19 年度宮前区区民会議・明日のコミュニティ部会(第 6 回) 摘録

日時 平成 19 年 10 月 19 日(金) 18 時 05 分～19 時 30 分  
場所 宮前区役所 4 階第 1 会議室  
出席者 宇賀神部会長、川島委員、鈴木和子委員、高木委員、永野委員、松井委員、三谷委員、目代委員、  
事務局 田邊企画調整担当主幹、中山企画調整担当主査、東企画調整担当主査、成沢職員  
佐々木こども総合支援担当参事

### 1. 開会・事務連絡(事務局)

#### 事務局から事務連絡

- ・ 会議の情報公開について
- ・ タウンミーティング 10 月 31 日、市民館の大ホールで開催。
- ・ 明後日、宮前区民祭を北部市場で開催する。

#### 部会長あいさつ

#### 事務局 これまでの議論のとりまとめ(資料 1・2 の説明)

##### 地域の課題の具体的解決策について

**三谷委員** 部会の提言は、「わがまちはこんな状況ですよ」と問題提起するコミュニティ白書的なスタイルにする方法もあるのではないかな。

宮前区独自の課題について、もっと突っ込んでいかないと抽象論議や妥協の産物になってしまうのではないかな。

**永野委員** 抽象的な記述になりすぎてしまったのではないかな。「地域コーディネーター」の言葉をなんとか活かしたい。マップづくりや子どもたちと一緒に取組みの後押しをする人、つなぎやちょっとした世話をできる人を、多世代で出していくことが大事だ。あまり難しく考える必要はない。

防災コーディネーターの人数表記も、削除しなくても良いのではないかな。各小学校、各学年の親から 1 人だせば、いろいろな組織に声をかけられれば、あっという間に 100 人になる。数字を出すことによるインパクトも大きい。

地域の中で優れたリーダーを 1 人つくるよりも 20% の力で良いので、地域の顔の見える関係の中で動ける人を担い手としてつくっていくことが大切だと、防災インストラクターの方が言っていた。

**松井委員** 地域で力をもっている人の活躍の場、いろいろな方々が交流する場を上手につくっていくことが大切だ。そこで諸団体が一緒に何かに取組む中で人も自然に育ってくるだろう。他の団体に声をかけられる世話役が必要だ。

**鈴木和子委員** 「こういうことができる」「こんな興味があるよ」という人を集めて、地域の中での役割を見つけていく。やさしい感覚で何かできないかな。

**永野委員** この時期、神社のお祭や学校関係のイベント、区民祭など地域のイベントが続いているが、担い手に代わり映えがなく、いつも同じ人が支えている。もっとフラットにまんべんなく多世代の人達が、地域で動いているようにしたい。どんなテーマでも、広報役でも良い。

**高木委員** 人を集めたり、地域の課題を探っていく作業は地域住民でないとできないことだ。行政はその側面支援を行う。行政には防犯（警察） 防災（消防署） 詐欺対策など様々な人材派遣や助成金の制度があるが、それがあまり知られておらず、住民が使いきれしていない面がある。地域コーディネーターだけつくっても、それを使える場、活躍する場がなければつながらない。

**宇賀神部会長** 地域コーディネーターについては、これまで議論してきたことを、もう少しどうと表現して良いのではないかと。

**事務局** 「地域コーディネーター」が何をするのか、どのように育成するのか、イメージがなかなか固まらない面がある。

**三谷委員** 町村合併のコーディネーターをやったことがあるが、うまくいったところとうまくいかなかったところがあった。組織間で直接話し合うことが難しい時は第三者としての調整役の存在が重要だ。

**事務局** 区民の連携のための調整役は重要だが、ある講座を受けたら調整能力が身につくということではないのではないかと。むしろ、地域で地道に色々な経験をしながら、人脈をつくることでしか、地域の調整役は育たないのではないかと。

**永野委員** 調整役＝リーダーではない。人つなぎができる人が地域にたくさんいてほしい。

**宇賀神部会長** 地域の中で自然と人材が育つようなプログラムを目指したい。

**川島委員** 町内会や自治会は型が決まっていて、それぞれ別個の団体として動いている。活性化というよりは老朽化しており、同じメンバー、充て職のような形で動いていることもある。つなげる役割は区役所、地域振興課にも期待したい。

**松井委員** 地域で活躍している諸団体の役員が自分たちの活動だけで手一杯になっている面があるのではないかと。

宇賀神部会長の地域の文化祭などは非常に面白い試みだと。様々なプログラムを自主的に展開できている地域は人間関係がうまくできている。「地域の絆があった方が良い」という意識は広がってきていると思うので、良い事例を持ち寄って発表する機会や場があれば、他の地域も刺激されるのではないかと。

コミュニティ形成には飲み屋が必要といった大学の先生もいるが、一緒に食べながら、飲みながら、ということも重要。地域に小さなサロンができていけば、一番良い。

**高木委員** ノミニケーションという言葉もあります。小学校区には大体 7・8 前後の自治会が集まっているので、何か共通するテーマで人集めをする必要がある。避難所運営が始まっている中で、一つのイベントとしてやっていってはどうかと。

こども安全・安心協議会はいろいろな組織が入っていて、ネットワーク形成の可能性はある。その中でイベントを考え、しきれるような人を育てていくことが大切だ。

**鈴木恵子委員** 文化協会でも地域貢献を考え、小学校との交流などを行なっている。踊りや歌もあり、活用しやすい団体だと思うので、もっと利用していただきたい。

**高木委員** 小学校の文化祭はこどもだけでやっている学校が多い。そこに例えば、地域の人達も入れるようになれば、良いのではないかと。

**川島委員** 商店街でも、フレンド神木という地域の高齢者施設でのイベントを行なった例がある。忘年会での話から発展して、多くの人のがのって来て、交流が広がった。こういう事例をもっと増やしたい。全体の方向付けは良いと思うが、もう少しこれまでの議論からの肉付けがほしい。

**宇賀神部会長** 全体的に、もう少し明確なメッセージが欲しいと思います。例えば担い手の「発掘」というよりは積極的な「育成」を打ち出したい。

**永野委員** 地域コーディネーターについては、前回の記述に戻った方が良いのではないかと。

**高木委員** コーディネーター以外の名称を考えても良いのではないのでしょうか。

**目代委員** 「地域コーディネーター」という言葉から想起されるイメージが一致していないのではないかと。長年培ってきた地域でのコミュニケーションの深さが重要なものだとする、講習会で育成することは無理だ。目的や方法が思い浮かばない。

**宇賀神部会長** 私が持っているイメージは地域における先輩から後輩への様々なことの継承のようなイメージだ。「コーディネーター」としてしまうと、意味合いが違ってきてしまうように思う。

**事務局** 「地域をつなぐ人材」という言葉を今回の資料では使っている。

**目代委員** 体育や交通の指導員の方々は、関連団体への声かけもしていて、良いコーディネーターになっていると思います。それをコミュニティのレベルでシステム化するにはどうしたらよいのか。

**三谷委員** 人を募集し、位置づけることも必要ではないか。格好いい言葉で掲げ、認定していくことによってモチベーションが上がる部分もあるのではないかと。

**永野委員** 30代は学校を通じて集めることができそうだが、40～50代をどうするか。男女も含めて様々な世代をどうやって集めるかが課題だ。

**川島委員** 地域の世話焼きさんを増やすことだ。

**三谷委員** 集まってから何か考えるのはどうか。

**高木委員** それは役所の事業としては無理だ。

**目代委員** 役職としてつくることにはなんとなく抵抗感があります。役職名だけ先行してしまう人が出てくるのではないかと。地域の人のお話を聞いてくれるということが一番大切だ。

**宇賀神部会長** 「あなたがコーディネーターだから、勉強をして、担っていくんだよ」なんて言ったら、誰もやらなくなってしまうのではないかと。今既に活躍している人に方向性を示せば良い。

**事務局** 行政がそういった人を育成するというのはおこがましいのではないかと考えている。地域が活性化することによって、交流することによって、自然に沸いてくるものだと感じている。

**松井委員** 何か物事を進めるときにはコーディネーターだけでなく、プランナーやディレクター、オーガナイザーなどいろいろな役割をする人がいる。コーディネートは本当に一部分だ。

**高木委員** 地域のつなぎ手についての記述をもう少し大きくしていきたい。例えば、「イベントの企画運営を学ぶための講習会」ならわかるが、「コ-ディネーターの講習」というと何をやるのか、わからない。

**永野委員** こども安全・安心協議会はまだ動き出したばかりで、活性化どころでないところも多いのが実体だ。

**松井委員** 「憩いのサロンづくり」が手法としてはある。地域での交流の場を、例えば施設、公園、家や広場など様々な形で開く。その中で良い話題提供ができれば、地域が広がり、深まっていく。どこかの国で、街角に人が集まる場所をたくさん作ったら、コミュニティが良くなったという話もある。

**高木委員** サロンというのは良い表現だ。

**川島委員** 東急の前でもできると良い。

**鈴木恵子委員** 文化協会が市民館で行っている色々な企画もサロンになりうる。

**永野委員** 全国生涯学習研究会が、全国規模で進めている「壮年のたまり場」という試みもある。

**松井委員** 地域の「縁側」などという言葉を使うこともある。

**永野委員** 別紙の掲載内容をもう少し資料1に反映させたい。

**宇賀神部会長** 人材や場づくりについて、もう少し書き込みたい。あまり子ども安全・安心協議会ばかり

りがクローズアップされないようにしたい。

**事務局** たまり場について、行政の試みとしては、区内に6箇所の区民活動支援センターの設置計画がある。区役所、向ヶ丘出張所、有馬の生涯学習センター、菅生の子育て支援センター、宮前連絡所、鷺沼保育所の裏だ。それ以外にも、地域からも自治会館や商店街の空き店舗などが出てくれば良い。

**三谷委員** ハードの話は良いのですが、イベントなどのソフトの話はどうしても抽象論になりがちだ。

**松井委員** 地域での文化祭は良いイベントだと思う。地域の反応はどうなのでしょう。文化協会などにも応援を頼んではどうでしょうか。

**宇賀神部会長** 今は自治会単位だが、学校区にひろげてはというような話も出ている。

**三谷委員** コミュニティは地域住民がつくるもの。役所はコーディネーター、後押しの役割しかできない。

**宇賀神部会長** 役割分担についても触れたい。地域は人を出す。行政はネットワーク化を充実させる。情報の発信などは行政の方がやりやすい面もある。

**川島委員** 区民祭は行政のコーディネートや支援で続いてきたイベント例だ。

**宇賀神部会長** 今日の議論を再整理したものを皆さんに送付し、やり取りをしてまとめていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。